

地域再生法に基づく地域再生計画の事後評価

1. 地域再生計画の概要

計画名称	清流の郷みま再生計画
作成主体	徳島県・美馬市
計画区域	美馬市の全域
計画期間	平成18年度～22年度
支援措置	汚水処理施設整備交付金、道整備交付金
認定日等	平成18. 3. 31/第1回
計画趣旨	美馬市は豊かな自然に囲まれ、多くの清流を抱えているが、生活環境等の変化により昔のような清流が失われつつある。そこで、汚水処理施設の整備を推進し、平成22年度末の汚水処理人口普及率を15%向上させるため、公共下水道・農業集落排水・浄化槽を組合わせ、生活環境の整備を行う。また、四国第2の高峰剣山、水質四国一の穴吹川を「観光リゾート拠点」として、林道・市道を活用した観光ルートを整備するとともに、山間部の基幹産業である林業振興のために、森林整備を促進させ、地域の活性化を図る。

2. 地域再生計画に記載した目標の達成状況

	目標	目標値	実績値	目標達成度
目標1	汚水処理施設の整備促進	汚水処理人口普及率を25.6%から40%に向上	25.6%→43.4%	100%
目標2	四国三郎の郷、うだつの町並み、中尾山高原、穴吹川筏下り大会を活用したPRにより観光客を誘致するとともに雇用を確保。	観光客年間45万人→51万人、新規常勤雇用17名	観光客45万人→53万人 新規雇用17名→14名	50%
目標3	森林整備の促進を図る。	平成19年度～22年度整備計画1,300ha	1,300ha→1,640.13ha	100%

3. 目標を達成するために行う事業(地域再生法第五章の特別の措置を適用して行う事業)の実施結果

(1) 汚水処理施設整備交付金を活用する事業

施設の種類		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	合計	実施結果
公共下水道	計画(千円)		200,000	200,000	200,000	200,000	800,000	平成19年～平成22年度にかけて、公共下水道穴吹処理区(口山、舞中島地区)について、概ね計画通り整備を行い、汚水処理人口888人の普及をはかった。
	実績(千円)		200,000	200,000	200,000	200,000	800,000	
	交付金(千円)		100,000	100,000	100,000	100,000	400,000	
農業集落排水	計画(千円)		404,000	424,000			828,000	平成19年～平成20年度にかけて、農業集落排水施設喜来処理区について、概ね計画通り整備を行い、汚水処理人口1,307人の普及をはかった。
	実績(千円)		404,000	375,720			779,720	
	交付金(千円)		202,000	187,860			389,860	
浄化槽(個人設置型)	計画(千円)	44,607	44,607	43,557	1,541	32,362	166,674	平成18年～平成22年度にかけて、美馬市内全域(公共下水道事業認可区域と農業集落排水処理区域を除く)で設置される合併浄化槽設置者に対し、概ね計画通り合併浄化槽設置補助金の交付を行い、汚水処理人口1,047人の普及をはかった。
	実績(千円)	44,607	36,720	20,623	21,667	25,431	149,048	
	計画(基)	112	112	112	4	129	469	
	実績(基)	112	95	62	69	81	419	
	交付金(千円)	14,869	12,240	6,874	10,443	5,256	49,682	

(2) 道整備交付金を活用する事業

施設の種類	路線名		事業期間	事業量(m)	事業費(千円)	交付金(千円)	実施結果
口山148号線		計画	H19～H22	L=400	80,000	40,000	幅員が狭小かつ急カーブが多く車両等の通行に支障をきたしていたが、改良をすることによりスムーズな通行と、安全の確保をすることができた。
		実績	H19～H22	L=401	77,800	38,900	
口山30号線		計画	H19～H22	L=400	80,000	40,000	集落間を結ぶ市道であるが、幅員が狭小で急カーブが多く車両等の通行に支障をきたしていた。改良をすることによりスムーズな通行を確保することができた。
		実績	H19～H22	L=775	80,000	40,000	
口山140号線		計画	H19～H22	L=1,000	40,000	20,000	路面の老朽化が著しく、緊急時における避難路としての機能が大きく低下していた。舗装の改良をすることにより避難路としての機能を確保することができた。
		実績	H19～H22	L=974	40,800	20,400	
口山98号線		計画	H20～H22	L=1,500	30,000	15,000	集落を結ぶ主要幹線市道であり、中山間地域の主要産業である林業の振興を図るための道路整備ができた。
		実績	H20～H22	L=2,159	29,600	14,800	
口山65号線		計画	H19～H22	L=2,000	20,000	10,000	路面の老朽化が著しく緊急時における避難路としての機能が大きく低下していたが、舗装の改良をすることにより避難路としての機能を確保することができた。
		実績	H19～H22	L=1,259	20,400	10,200	

市道

口山9号線	計画	H19~H20	L=1,000	16,000	8,000	路面の老朽化が著しく緊急時における避難路としての機能が大きく低下していたが、舗装の改良をすることにより避難路としての機能を確保することができた。
	実績	H19~H21	L=794	26,900	13,450	
口山57号線	計画	H19~H20	L=400	20,000	10,000	路面の老朽化が著しく緊急時における避難路としての機能が大きく低下していたが、舗装の改良をすることにより避難路としての機能を確保することができた。
	実績	H19~H20	L=110	19,500	9,750	
古宮10号線	計画	H19	L=500	8,000	4,000	路面の老朽化が著しく緊急時における避難路としての機能が大きく低下していたが、舗装の改良をすることにより避難路としての機能を確保することができた。
	実績	H19	L=428	4,700	2,350	
口山47号線	計画	H19	L=400	8,000	4,000	路面の老朽化が著しく緊急時における避難路としての機能が大きく低下していたが、舗装の改良をすることにより避難路としての機能を確保することができた。
	実績	H19	L=130	11,300	5,650	
口山117号線	計画	H19	L=800	10,000	5,000	路面の老朽化が著しく緊急時における避難路としての機能が大きく低下していたが、舗装の改良をすることにより避難路としての機能を確保することができた。
	実績	H19	L=850	10,000	5,000	
川上・中尾山線	計画	H19~H22	L=200	160,000	80,000	美馬市を経て剣山方面へのアクセス道、地域の迂回路としての機能向上が図られつつある。今後においても他事業等により未改良区間の改良促進を図る。
	実績	H19・H21~H22	L=160	111,000	55,500	
川上5号線	計画	H21~H22	L=1,000	15,000	7,500	路面の老朽化が著しく緊急時における避難路としての機能が大きく低下していたが、舗装の改良をすることにより避難路としての機能を確保することができた。
	実績	H22	L=397	7,000	3,500	
猪ノ谷線	計画	H22	L=500	8,000	4,000	路面の老朽化が著しく緊急時における避難路としての機能が大きく低下していたが、舗装の改良をすることにより避難路としての機能を確保することができた。
	実績	H22	L=425	8,000	4,000	
櫟木線	計画	H19	L=500	7,000	3,500	路面の老朽化が著しく緊急時における避難路としての機能が大きく低下していたが、舗装の改良をすることにより避難路としての機能を確保することができた。
	実績	H19	L=1,005	15,000	7,500	
谷口線	計画	H20~H21	L=1,000	15,000	7,500	路面の老朽化が著しく緊急時における避難路としての機能が大きく低下していたが、舗装の改良をすることにより避難路としての機能を確保することができた。
	実績	H20	L=370	7,000	3,500	
森遠4号線	計画	H19	L=500	7,000	3,500	路面の老朽化が著しく緊急時における避難路としての機能が大きく低下していたが、舗装の改良をすることにより避難路としての機能を確保することができた。
	実績	H19	L=1,220	15,000	7,500	
寺内線	計画	H21~H22	L=1,000	15,000	7,500	路面の老朽化が著しく緊急時における避難路としての機能が大きく低下していたが、舗装の改良をすることにより避難路としての機能を確保することができた。
	実績	H21~H22	L=747	14,000	7,000	
川原線	計画	H21~H22	L=1,000	14,000	7,000	路面の老朽化が著しく緊急時における避難路としての機能が大きく低下していたが、舗装の改良をすることにより避難路としての機能を確保することができた。
	実績	H21~H22	L=709	14,000	7,000	
内川地3号線	計画	H20~H21	L=1,000	15,000	7,500	路面の老朽化が著しく緊急時における避難路としての機能が大きく低下していたが、舗装の改良をすることにより避難路としての機能を確保することができた。
	実績	H20~H21	L=741	15,000	7,500	
麻衣線	計画	H20~H21	L=1,000	15,000	7,500	路面の老朽化が著しく緊急時における避難路としての機能が大きく低下していたが、舗装の改良をすることにより避難路としての機能を確保することができた。
	実績	H21	L=377	7,000	3,500	

	太合実平線	計画	H20～H22	L=3,000	45,000	22,500	路面舗装、待避場整備により美馬市を迂るぎ町方面へのアクセス機能強化や集落道としての機能向上が図られつつある。また森林施業等の活動にも寄与している。今後も未整備区間解消に向けての取り組みを図る。
		実績	H22	L=1,050	30,000	15,000	
	川井・麻衣線	計画	H20～H21	L=1,000	15,000	7,500	路面の老朽化が著しく緊急時における避難路としての機能が大きく低下していたが、舗装の改良をすることにより避難路としての機能を確保することができた。
		実績	H21	L=190	5,000	2,500	
	弓道1号線	計画	H19～H22	L=700	327,000	163,500	当路線では関連区間の修繕等は行ったが、市が行っている橋梁補修等の事業により、一体的に推進に事業推進を行いたいため事業実施を見送った。
		実績	H19	L=638	10,000	5,000	
	檜原4号線	計画	H22	L=500	8,000	4,000	路面の老朽化が著しく緊急時における避難路としての機能が大きく低下していたが、舗装の改良をすることにより避難路としての機能を確保することができた。
		実績	H22	L=300	8,000	4,000	
	市初線	計画	H22	L=500	8,000	4,000	路面の老朽化が著しく緊急時における避難路としての機能が大きく低下していたが、舗装の改良をすることにより避難路としての機能を確保することができた。
		実績	H22	L=490	8,000	4,000	
	大北1号線	計画	H21～H22	L=1,000	14,000	7,000	路面の老朽化が著しく緊急時における避難路としての機能が大きく低下していたが、舗装の改良をすることにより避難路としての機能を確保することができた。
		実績	H20～H21	L=693	14,000	7,000	
	竹尾線	計画	H20～H21	L=1,000	15,000	7,500	路面の老朽化が著しく緊急時における避難路としての機能が大きく低下していたが、舗装の改良をすることにより避難路としての機能を確保することができた。
		実績	H20	L=378	7,000	3,500	
	内宇夫1号線	計画	H20～H21	L=1,000	15,000	7,500	路面の老朽化が著しく緊急時における避難路としての機能が大きく低下していたが、舗装の改良をすることにより避難路としての機能を確保することができた。
		実績	H20	L=418	8,000	4,000	
内宇夫3号線	計画	H20	L=300	5,000	2,500	路面の老朽化が著しく緊急時における避難路としての機能が大きく低下していたが、舗装の改良をすることにより避難路としての機能を確保することができた。	
	実績	H20	L=197	5,000	2,500		
林道	大北木戸峠線	計画	H19～H22	L=900	115,200	57,600	林道を整備することにより、森林へのアクセスと効率化が図られた。
		実績	H19～H22	L=801	90,121	45,060	
	北又剪宇線	計画	H20～H22	L=700	90,000	45,000	効果達成まで引き続き1年間実施し、開設事業を完了させて林業施業の効率化を図る。
		実績	H20～H22	L=565	82,960	41,480	
	大谷山線	計画	H20～H22	L=500	90,000	45,000	一応の効果は上げられたが、より一層のアクセス路の整備を行い、林業の振興と地場産業の活性化を図る。
		実績	H20～H22	L=554	84,800	42,400	
	木屋平木沢線	計画	H21～H22	L=400	140,000	70,000	一応の効果は上げられたが、より一層のアクセス路の整備を行い、林業の振興と地場産業の活性化を図る。
		実績	H21～H22	L=332	139,500	81,240	
	田野内杖立線	計画	H21～H22	L=600	160,000	80,000	一応の効果は上げられたが、より一層のアクセス路の整備を行い、林業の振興と地場産業の活性化を図る。
		実績	H21～H22	L=497	152,000	88,480	
	梶山内田線	計画	H21～H22	L=500	110,000	55,000	一応の効果は上げられたが、より一層のアクセス路の整備を行い、林業の振興と地場産業の活性化を図る。
		実績	H21～H22	L=628	123,000	71,645	

4. 総合評価および今後の方向性

- ・公共下水道整備を進めた結果、平成22年度末の汚水処理人口普及率が43.4%に達し、目標を達成することが出来た。
- ・観光入込客については、「うだつの町並み」等を核とした観光スポットの拡大や各種イベントの開催、アクセス道路の整備を進めた結果、目標を達成することが出来た。しかし、経済不況等により新規常勤雇用の目標が達成できなかった。
- ・森林整備計画については、間伐等事業を推進した結果、目標を達成することが出来た。
- ・汚水処理人口普及率は、まだ半分も達成できていないため、今後も普及促進に努めたい。また市道、林道等の整備や森林整備促進を図り、地域の活性化に努めたい。